

初動期整備計画素案（東口地下自転車駐車場）

資料7

◆ 整備目標台数

■ 整備目標台数の考え方

①【これまでの検討台数】・・・約2,000台

○ 駅周辺の自転車駐車場の総収容台数と自転車の総集中台数はほぼ等しいことから、暫定利用解消によって不足する台数分のみ整備。(2,000台)

②【振替対象の暫定自転車駐車場の追加】・・・約2,500台

○ 暫定自転車駐車場として、都市計画公園用地、呑川緑道整備のため、蒲田駅東口交差(450台)、蒲田あやめ橋(90台)を振替対象として追加。(2,500台)

③【駅周辺の放置自転車に対応する場合】・・・約3,000台

○ 暫定利用解消によって不足する台数分を整備。(2,500台)
○ 駅周辺の放置自転車に対しては、自転車が最も集中する時間帯(15時台)の放置台数を整備。(500台)

<周辺自転車駐車場での対応>

駅周辺の放置
への対応：
500台

<新規自転車駐車場整備での対応>

暫定振替：2,000台

駅周辺の放置
への対応：
500台

暫定振替：2,500台

暫定振替：2,500台

駅周辺の放置
への対応：
500台

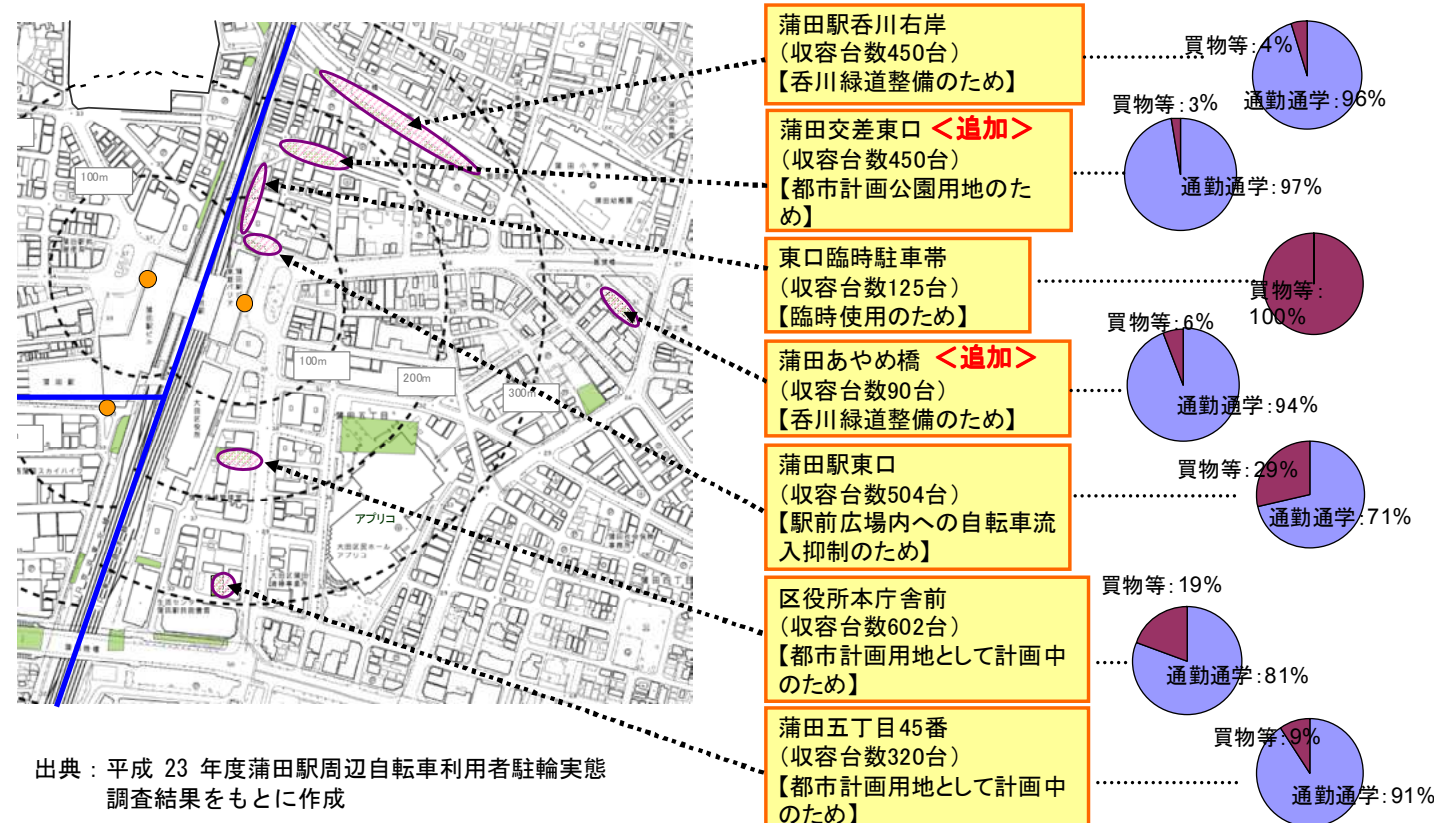
■ 暫定自転車駐車場の解消(約 2,500 台)

○ 暫定利用解消のため、東口エリアでは約2,500台(通勤通学：約2,100台、買物約450台)の自転車駐車場が必要

※都市計画公園用地、呑川緑道整備のため蒲田交差東口(450台)、あやめ橋(90台)を解消が必要な暫定自転車駐車場に追加

<当面解消が必要な暫定自転車駐車場>

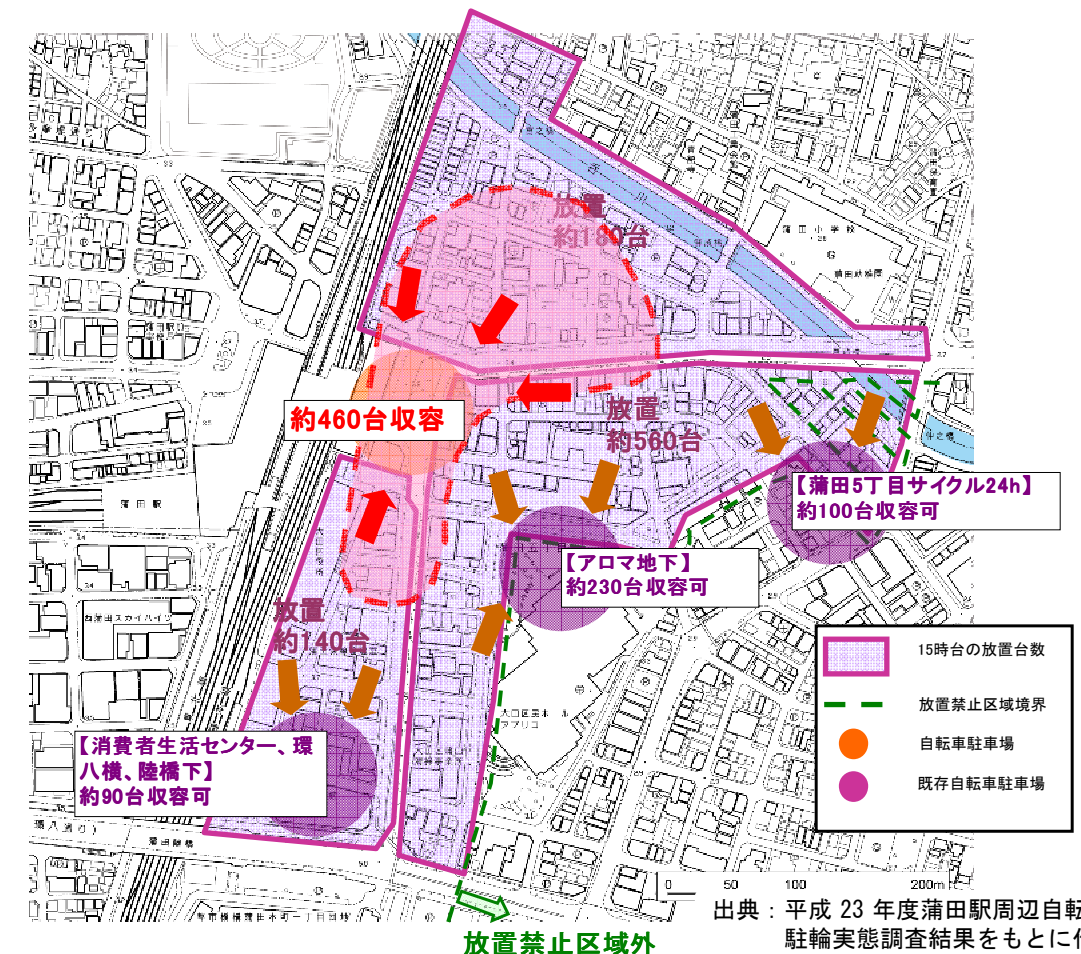
<利用目的割合(H23調査)>



出典：平成 23 年度蒲田駅周辺自転車利用者駐輪実態調査結果をもとに作成

■ 東口駅前広場周辺の放置自転車への対応(約 500 台)

○ 東口駅前広場地下自転車駐車場では、既存自転車駐車場の存在しないエリアを中心とした、約500台分(主に買物等目的)の放置自転車への対応が必要



出典：平成 23 年度蒲田駅周辺自転車利用者駐輪実態調査結果をもとに作成

※イメージ図及び記載内容は、蒲田駅周辺再編プロジェクトの作成に向け検討中のものであり、決まったものではありません。

◆ 東口地下自転車駐車場の課題

- 暫定自転車駐車場
 - ・ 都市計画用地や、緑道整備が予定されている箇所等に整備されている暫定自転車駐車場の解消
- 東口駅前広場周辺の放置自転車
 - ・ 東口駅前広場周辺に存在する放置自転車の収容

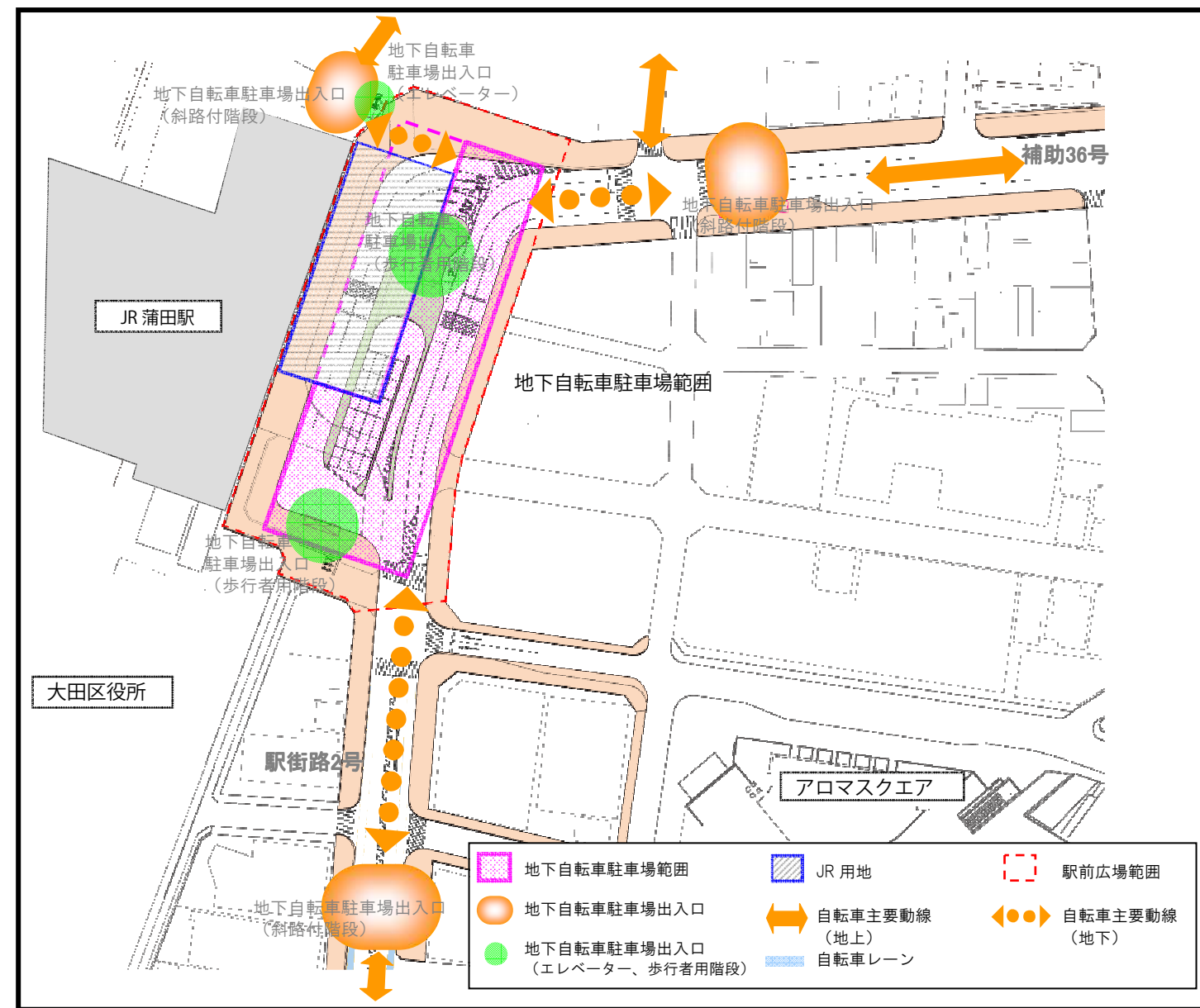
◆ 初動期整備の考え方(計画条件)

- 1) 収容目標台数
 - ・ 暫定自転車駐車場の解消と駅周辺の放置自転車へ対応した約 3,000 台の確保 (JR 用地の活用を含めた検討)
- 2) 整備箇所
 - ・ 駅に近く収容目標台数を収容するまとまった空間がある駅前広場地下への整備
- 3) 自転車駐車場形式
 - ・ 事前登録が不要で買物利用者にとって利用しやすく、地上からの入出庫口の数少なくすむ自走による入庫形式
 - ・ 収容目標台数確保のため、地下 1 層の自走式平置きと地下からの機械式(水平式)の併用
- 4) 地下自転車駐車場出入口
 - ・ 駅前広場にアクセスする北・東・南側の 3 ヶ所への設置
 - ・ 駅前広場内の自転車通行抑制のため、駅前広場外への設置
 - ・ 子ども連れや高齢者の利用に対応するための昇降施設の併設
 - ・ 鉄道利用者の利便性を考慮した、歩行者専用の出入口の設置

◆ 初動期整備における課題

- 利用者の利便性を考慮した平置き自走式の収容台数の確保
 - ・ JR 用地の活用
- 出入口設置位置・スペースの確保
 - ・ 北方面からの利用者用の出入口確保 (補助 36 号、駅ビル北側)
 - ・ 南方面からの利用者用の出入口確保 (駅街路 2 号)
 - ・ 駅前広場内への歩行者用出入口の設置位置確保 (JR 用地の活用)
 - ・ 買物目的の利用者、高齢者等にも使いやすい出入口の設置 (スロープと EV の併設等)
- 自転車の東西連絡の検討
 - ・ 既存 JR 地下管理通路の活用可能性検討
- 自転車駐車場までのアクセス動線の確保
 - ・ 自転車レーン等の自転車走行空間の検討

◆ 整備イメージ



◆ 地下自転車駐車場出入口事例(自走による入庫形式)



※イメージ図及び記載内容は、蒲田駅周辺再編プロジェクトの作成に向け検討中のものであり、決まったものではありません。